

(見本)

土壌診断書

2022/7/2

JAOO ××支店
農研 千太

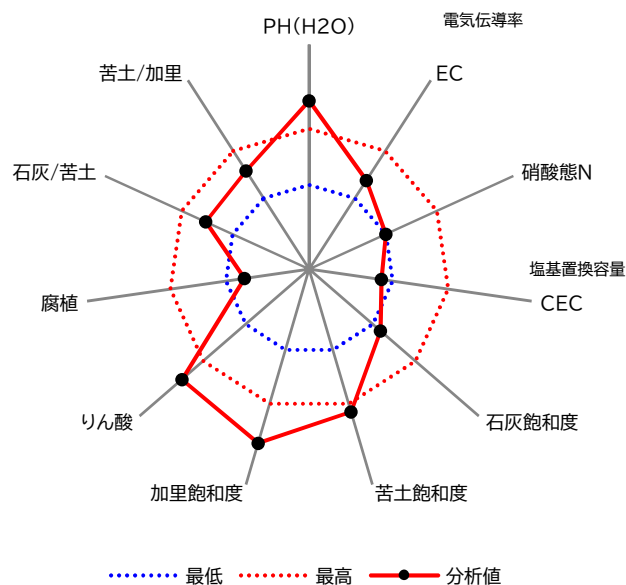
様 電話 025-123-4567

新潟市農業活性化研究センター

〒950-1406
南区東笠巻新田3043-1
電話:025-362-0151

No.	06-02-45	圃場名	サンプル圃場	地目	施設
分析受付月日	2022年6月2日			土性	壤土
作物名	野菜	備考	サンプル用データ		

分析項目	単位	基準値 (下限～上限)	分析値	少	適	多
pH (H ₂ O)	pH	6.00 ～ 6.50	6.75			多
EC(電気伝導率)	mS/cm	0.00 ～ 1.00	0.38		適	
硝酸態窒素	mg/100g	0.0 ～ 5.0	1.3		適	
アンモニア態窒素	mg/100g	— ～ —	0.8			
CEC(塩基置換容量)	me	15.0 ～	13.0	少		
交換性石灰(CaO)	mg/100g	200 ～ 255	210		適	
交換性苦土(MgO)	mg/100g	44.2 ～ 46.8	47.2			多
交換性加里(K ₂ O)	mg/100g	24.4 ～ 30.6	35.0			多
有効態りん酸(P ₂ O ₅)	mg/100g	20 ～ 60	80			多
腐植	%	3.00 ～	2.33	少		
りん酸吸収係数		— ～ —	551			
可給態けい酸(SiO ₂)	水稻のみ	— — —	—			
遊離酸化鉄(Fe ₂ O ₃)	水稻のみ	— — —	—			
塩基バランス		基準値	分析値	少	適	多
石灰・苦土当量比		～ 6.0	3.18		適	
苦土・加里当量比		2.0 ～	3.17		適	
塩基飽和度	%	— ～ —	82			
石灰飽和度	%	55.0 ～ 70.0	57.7		適	
苦土飽和度	%	17.0 ～ 18.0	18.2			多
加里飽和度	%	4.0 ～ 5.0	5.7			多



<基準値について>

施肥前の土壌について、一般的な肥培管理を行って正常な収量をあげうと思われる範囲を示したものです。

<コメント>

pHが高くなっています。一般的にはpH7.0以上になると微量元素が吸収されにくくなります。
ECと硝酸態窒素は窒素の施用量を増減する目安です。採土時期が施肥前であれば基準値の範囲内です。
窒素質肥料の施用量は現状のままでよいでしょう。
苦土、加里が過剰です。苦土、加里の過剰は石灰の吸収を抑制します。苦土、加里は少なめの施用としてください。
りん酸が過剰です。300mg/100g以上では過剰害が出る恐れがあります。
腐植が少ないです。良質な有機質資材を多めに施用し、土壌の理化学性の改善に努めてください。有機質資材も窒素、りん酸、加里が含まれた「肥料」ですので施肥設計には注意してください。
石灰/苦土/加里比のバランスが取れています。塩基バランスが崩れると拮抗作用により欠乏症が起こりやすくなります。塩基バランスを考慮した施肥設計をしてください。